東地域まちづくり協議会だより　第22号

氷見の魅力発見教室の開催

東地域まちづくり協議会　会長　大嶋　　充

東地域まちづくり協議会は８月２１日（日）、氷見市漁業文化センターで、「東地域・氷見の魅力発見教室」を開催しました。自治振興委員などが漁業について学び、魚の革を使った缶バッチづくりにも挑戦しました。

この行事は、当初、親子が地元について学ぶのが目的でしたが、新型コロナウイルスの感染が拡大し、急きょ本協議会の役員が日本農業遺産に認定された「氷見の持続可能な定置網漁業」について学ぶことに変更しました。

【魚の革で缶バッチづくり】

前半は、観光ボランティアグループ「つままの会」顧問の林　紀夫氏が、館内に備えられている映像や定置網模型を利用して氷見の定置網漁業の仕組みや歴史などについて説明してくださいました。

後半は、前地域おこし協力隊で、現在本協議会事務局長の野口　朋寿氏が講師となり、スズキ、ブリ、タイ、ヒラメなどの革を使って、缶バッチづくりに挑戦しました。(写真)

今回は、新型コロナ感染拡大防止ということで、次代を担う子どもたちの参加は見送ることにし、私たち役員がこの機会に地域について学ぼう、ということになりました。地域づくり協議会のリーダーとして、この機会に学んだことをこれからの地域づくりの実際の活動の場で活かしていきたいと思います。

東地域（中央地区）防災訓練の実施

９月１８日（日）、〝みんなの町は、みんなで守ろう！〟というテーマで、防災訓練を実施しました。

防災訓練で最も大切にされなければならないことは、私たちのまちと住んでいる人々の命を守ることであると思います。第９次氷見市総合計画の第１章「住みたいまち」の　中の、防災・減災対策の充実として、「いざというときの逃げ遅れによる尊い命を守ることができるよう」、各種対策による意識の啓発や自主防災組織の強化を図ることが謳われています。東地域まちづくり協議会は、平成２９年６月に発足しました。そして、令和元年に「東地域まちづくり計画書」を作成し、その計画書の中に、中央地区と北部地区の防災活動における、ゆるやかな統合ということが、取り組むべき課題として取り上げています。

東地域まちづくり協議会で活動を推進するにあたり、そのスタイルとして、小規模多機能の自治活動を最も中心に据え、この理念を大切にしております。これは、人口が少なくなっても、住民の力で現組織の維持や活動を持続させていくための方策であります。

当日は、林市長・石田防災・危機管理監、県会・市会議員の皆様をはじめ、川淵氷見市防災ネットワーク会長、株式会社水口化成からは、松本様をはじめ、東地域まちづくり協議会役員の方々、また、中央地区の住民の皆様など、大勢の方々が参加してくださいました。訓練の内容は、「シェークアウト訓練・水のう袋の取り扱いについての説明」、「自分たちの町は自分たちで守ろう」と題した講演など、今日的な課題に沿った有意義なものでした。

本稿では、この訓練を踏まえて、地域の皆様に、特に大切にしていきたい次の事柄についてお知らせしたいと思います。

◇災害は、毎回違う顔で襲ってくる。

◇災害のときの危機管理は、「自助」「共助」「公助」の連携。

◇自分の身（家族）は、自分で守る。私たちの東地域は私たちで守る。

◇日頃から、いろいろな災害を想定して、訓練をしておく。

災害は、いつ・どこでやってくるか分かりません。これからも、東地域まちづくり協議会では、安全・安心な地域づくりを目指していきたいと思います。地域の皆様の一層のご理解・ご協力をお願いいたします。